

施策 No.	政策名	子どもから高齢者まで健康で共生のまちづくり	主管課	児童福祉課	主管課長名	萩原 英雄
1-1	施策名	子育て支援の充実と少子化対策の推進	関係課	健康推進課、こども園、幼稚園、学校教育課、国保年金課、農林課、生活環境課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度		
	市民 子育てをする保護者	①桜川市人口		人	見込値	41,278	41,008	40,027	39,571	38,957	
実績値					41,278	40,483	39,692				
②中学生までの子ども(乳幼児・児童・生徒)を持つ世帯数				世帯	見込値	2,695	2,691	2,688	2,685	2,682	
					実績値	2,695	2,579	2,624			
						見込値					
						実績値					
施策の意図		成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度		
					29年度	30年度	元年度	2年度	3年度		
安心して子どもを産み、子育てが できている。		①子育てがしやすいまちだと思ふ割合		%	目標値	48.0	49.0	49.0	50.0	51.0	
					実績値	46.8	46.8	49.4			
			②子育てが楽しいと感じる保護者の割合		%	目標値	90.0	90.5	90.0	90.5	91.0
						実績値	88.1	84.3	83.8		
	③仕事と子育てが両立できていると思ふ保護者の割合				%	目標値	63.0	64.0	65.0	66.0	67.0
						実績値	63.7	65.0	64.1		
	④ファミリー・サポート・センターを利用した保護者の年間延べ利用者数		人	目標値	40	45	45	50	55		
				実績値	0	22	0				
					目標値						
					実績値						
	成果指標設定の 考え方	○安心して子供を産み子育てができるには、子育てがしやすいまちと思ふ割合が増加すると、子育てしやすい環境が整っていると考えられ出生率も上昇する。 ○子育て支援が充実することによって子育てが楽しいと考える保護者のわりあいが増加すると考えられる。 ○女性の就労人口が増えることにより仕事と子育ての両立が厳しいと思われ、子育て支援が必要と考えられる。 ○子育て支援としてお子さんを預かってほしい「お願い会員」と預かってくださる「まかせて会員」のマッチングをすることで安心して子育てが行える。									
	成果指標の把握 方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①子育てがしやすいまちだと思ふ割合、③仕事と子育てが両立できていると思ふ保護者の割合は、市民アンケートより求める。②子育てが楽しいと感じる保護者の割合は、乳幼児健診時アンケートより求める。④ファミリー・サポート・センターを利用した保護者の年間延べ利用者数は事業者からの利用実績報告数より求める。									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年3月末の桜川市の年齢別統計表によると、5歳児の人口は、274人、4歳児224人、3歳児250人、2歳児207人、1歳児185人、0歳児185人と3歳児は例外として年々児童数は、減少していることがわかる。</li> <li>・桜川市が子育てしやすいまちだと思ふ割合は、平成30年度では、46.8%、令和元年度では、49.4%でやや向上した。</li> <li>・子育てが楽しいと感じられる保護者の割合は、平成30年度で、84.3%、令和元年度では、83.8%でやや減少した。</li> <li>・仕事と子育てが両立できていると思ふ割合が、平成30年度で、65.0%、令和元年度では、64.1%とはほぼ横ばい状態。</li> <li>・ファミリーサポート・センターの利用した保護者の年間延べ人数については平成30年度においては延べ22人の利用があったが、令和元年度の利用はなかった。</li> </ul>		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・桜川市が子育てしやすいまちだと思ふ割合は、令和元年度49.4%で目標値に達した。</li> <li>・子育てが楽しいと感じられる保護者の割合は、令和元年度83.8%で目標値に達しなかったが、非常に高い割合の保護者が子育てが楽しいと感じている。</li> <li>・仕事と子育てが両立できていると思ふ割合は、令和元年度64.1%とわずかに目標値に達しなかった。</li> <li>・ファミリーサポート・センターの利用した保護者については、数件の相談があったが利用までは至らず目標値に達しなかった。</li> </ul>		

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
<p>貢献度評価から見て、令和元年度一定の効果があった事業は、学童クラブ運営事業、幼児教育保育の無償化事業、やまと認定こども園管理運営事業である。学童クラブ運営事業は桃山学園学童クラブの部屋の増設により児童受け入れの改善が図れた。また、幼児教育保育の無償化事業については、昨年10月1日からの事業開始に伴い保育施設、保護者への説明調整等を行い保育料の無償化が円滑に進められた。</p> <p>やまと認定こども園管理運営事業については、令和2年度入園児を考慮し、待機児童の解消のため保育室の増設を進め改修工事を進めたがコロナの影響もあり工事が予定通り進捗しなかったが、6月には新保育室も使用できる予定である。</p>	<p>子育てしやすいまちづくりには、住環境の整備とともに子育てに対しての様々な補助・金銭的支援など多面的な政策が必要である。</p> <p>また、子育てを楽しみ感じてもらえるよう保護者に対し、情報交換や交流ができる地域子育て支援センターを気軽に使用してもらえよう促していく。その他に、社会福祉協議会に委託しているファミリーサポートセンター事業の利用率を向上させていくことを社協と協議していく。</p>